読者へ　香西泰　xi

序　マクロ経済と産業構造　深尾京司　xiii

1　1980年代以降のGDPギャップと潜在成長率について　酒巻哲朗　3

1　GDPギャップ・潜在GDPの概念と推計方法……5
2　生産関数アプローチによる潜在GDP・GDPギャップの推計……11
3　潜在GDP・GDPギャップの推計上の問題点……20
4　今後の課題……26
付注　生産関数アプローチによる潜在GDP・GDPギャップの推計方法　27
参考文献……31

2　日本経済における消費と貯蓄——1980年代以降の概観　祝迫得夫・岡田恵子　33

1　はじめに……35
2　1980年代以降の家計消費の動向——概観……36
3　マクロの消費と資産価格——時系列モデルによる分析……38
4　「失われた10年」における家計の所得と消費／貯蓄……46
5　まとめ……56
参考文献……57

3　バブルからデフレ期にかけての家計の予備的貯蓄行動の変化
石井達也　59

1　はじめに……61
2　先行研究……64
3　分析手法……68
4　分析結果……77
5　結論……83
参考文献……85

4　設備投資分析の潮流と日本経済——過剰投資か過小投資か
宮川努・田中賢治　87

1　日本経済における設備投資の重要性……89
2　設備投資行動の実証分析と日本経済……94
3　設備投資は連動しているか……104
4　インベストメント・スパイクの決定要因……106
5　今後の設備投資分析の課題……118
補論　推計用データの作成方法……120
参考文献……124

5　わが国のバブル期以降の経済見通し・景気判断と経済政策
——その経緯と現時点からの評価
北坂真一　129

1　はじめに……131
2　バブル期以降の主なマクロ経済変数の動き……132
3　政府の経済見通しと実績……138
4　政府の景気判断と政策対応……144
5　政府の経済計画・中期見通し……149
6　まとめ……152

付表……154
参考文献……176

6 アジアの発展と日本経済——外需動向・為替レートと日本の国際競争力 堀雅博 177

1 はじめに……179
2 バブル・デフレ期における国際経済環境（概観）……180
3 マクロ輸出入関数に基づく外需分析……189
4 貿易データを用いた比較優位構造の分析……194
5 結論——まとめと含意……205
参考文献……208

7 労働供給，労働需要，技術進歩と経済成長 櫻井宏二郎 209

1 はじめに……211
2 労働需要と経済成長……212
3 労働供給と労働需要……235
4 技術進歩等と労働需要……239
5 結び……245
参考文献……247

8 日本企業の研究開発資産の蓄積とパフォーマンスに関する実証分析 元橋一之 251

1 はじめに……253
2 R&D 資本の蓄積とその効率性を巡る議論……255
3 研究開発投資の決定要因に関する分析……266
4 研究開発資産の企業パフォーマンスに対する影響……277
5 結論……283
参考文献……286

9 サービス産業の生産性　中島隆信　289

1 はじめに——生産性論争の前に……291
2 デフレ期における小売サービス生産性の変化……296
3 消費者満足とサービス価格……306
4 おわりに……318
参考文献……320

10 生産性・資源配分と日本の成長　深尾京司・金榮愨　323

1 はじめに……325
2 サプライサイドから見た日本の経済成長——他の先進諸国との比較……326
3 産業間の資源配分と生産性……338
4 企業・事業所間の資源配分と生産性動学……343
5 おわりに……352
参考文献……355

11 生産性変動と1990年代以降の日本経済　塩路悦朗　359

1 はじめに……361
2 生産要素稼働率と生産性測定——川本[2004]モデルの紹介……362
3 TFP変動と生産要素稼働率——理論的考察……366
4 生産要素稼働率の可変性を考慮した生産性測定——再検証……371
5 部門間資源配分，生産性と需要シフト……380
6 結論……385
参考文献……386

12 わが国の均衡実質金利　鎌田康一郎　387

1　はじめに……389
2　低域通過フィルター……390
3　Laubach-Williams モデルとその改良……396
4　NAILO と NAIRI……401
5　構造 VAR……406
6　DSGE モデル……411
7　均衡実質金利の不確実性……417
8　結論……425
参考文献……426

13 日本の景気循環の構造変化　渡部敏明　429

1　はじめに……431
2　複数の構造変化点をもつマルコフ・スイッチングモデル……433
3　ベイズ推定法とモデル選択……437
4　構造変化点と景気転換点の推定結果……441
5　結論……447
補論……448
参考文献……455

索引……457